

(外部公開用)

公開・非公開の別

公開 部分公開

非公開

令和4年度第1回浜松市介護保険運営協議会 会議録

1 開催日時 令和4年9月9日(金) 午後7時から午後8時30分まで

2 開催場所 浜松市役所 北館 101・102会議室

3 出席状況

(1) 浜松市介護保険運営協議会委員(50音順)

出席 9名 稲垣佐登史委員 磯部智明委員 小野宏志委員
鈴木謙市委員 鈴木隆之委員 豊島由樹子委員
仲村泰則委員 西澤基示郎委員 弓桁智浩委員

(2) 事務局

健康福祉部

介護保険課 加藤浩二課長 大村貴弘課長補佐 大石尚主幹 中澤学主幹
寺田達弘副主幹 山下悦代副主幹

高齢者福祉課 恒川浩章課長 鈴木博担当課長 亀田岳史課長補佐

4 傍聴者 1名

5 議事内容

(1) 令和3年度介護保険事業について

(2) はままつ友愛の高齢者プランの令和3年度事業実績及び進捗状況について

(3) 令和4年度介護保険サービス事業所の募集状況について

6 会議録作成者 介護保険課 総務・給付グループ 近藤

7 記録の方法 発言者の要点記録

録音の有無 有・無

8 会議記録

1 開会

2 委員、職員の紹介

3 会長あいさつ

4 介護保険課長あいさつ

5 副会長の選任

6 副会長あいさつ

7 議事

(1) 令和3年度介護保険事業について

(会長)

議事1点目、「令和3年度介護保険事業について」について事務局から説明願いたい。

<事務局から資料1について説明。>

(会長)

ただいま事務局から説明があったが、ご意見、ご質問等があれば発言を願いたい

(A委員)

決算の減額になっている事業所において数は減少しているわけではなさそうな印象を受けたが、各事業所で運営が厳しくなっているという理解で良いか。

有料老人ホームやサービス高齢者住宅が増えてきているが、定員に対してサービスの利用者が少なく運営が厳しい状況である。また今後、要介護認定者が増えていくに当たり、特養等を開設した場合において定員や介護職員が集まらないといった状況になってしまう可能性がある。そうした点を踏まえて、市として介護施設の運営に対してサポートして欲しい。

(事務局)

今後の特養等の整備については、調査を行い、状況を考慮しつつ次の第9期の事業計画等に反映させていきたい。

(B委員)

コロナの影響はどのくらいサービス費用に影響を与えたのか。これがコロナによ

る一時的な増減であれば特定の事業所は乗り越えている兆しがあるといえるが、コロナの影響なしにこの状況であれば、対策を考えていかなければならないのではないかな。

(事務局)

訪問介護、訪問看護、通所介護は増えてきている。老健は大きく減少していることからコロナの影響が出ているのではないかと考えている。コロナが蔓延したことによってサービスを控えるということは、今のところデータ上出ていない。

結果として要介護度が高い人が減少し、要介護1、要支援2の人が増えている状況がサービス給付全体に対し影響を与えており、コロナの影響が原因と限っていえるわけではないと考えている。

(C委員)

現在、浜松市における要介護2以上の認定率が低いということだが老々介護の問題などが増えてくることに伴い、要介護度が上がってくるのではないかという懸念は考えられる。要件の流れから認定申請をすることは増えてくる可能性があるが、市として対策など考えているのか。

要支援の段階から申請することは老化を懸念して考えられるが、単身世帯の高齢者、高齢者2人で過ごされている地域から外れてしまう場合など気付かれないパターンの対策を考える必要があるのではないかな。

(事務局)

75歳以上の一人暮らしの高齢者の方については民生委員にご協力いただき、3年に1度訪問して状況を確認し、必要に応じて地域包括支援センター等への案内をしていただいている。

(C委員)

地域において軽度の認知症の疑いのある方が、見受けられる。地域包括支援センターや民生委員に加えて、もう少しほかのマンパワーにご協力いただければ、より早い段階での認知症の対策ができるのではないかな。今後の検討をお願いしたい。

(D委員)

コロナ禍の在宅サービスの利用において、独居の方が陽性になってしまうとサービスの利用ができませんという事業所や逆に気を付けて対応するという事業所、最低限のケアを行うという事業所もある。また通所介護においては他県に出たら1週間来ないで欲しいという事業所もある。陰性が確認できれば利用可能とする事業所など事業所において対応は様々である。

一律の対応は難しいと思うが、ある程度コロナ渦において、継続的な事業運営の体制を整える支援をお願いしたい。

(A委員)

介護人材の確保は大切ではあるが、他にも人材不足となっている分野は多い。そうした他の分野との人材確保の兼合い、状況も考えて介護人材の確保に努めてほしい。

通いの場、認知症カフェは認知症の予防にとっても重要な役割を果たしていると考えている。コロナの状況等も考慮しつつ、通いの場の充実、支援に取り組んでもらいたい。

(事務局)

介護人材の確保については、資料2で説明を予定している。

通いの場の充実については、次期プランの中に取り入れていきたい。

(事務局)

市としてはフレイル予防、ロコモーショントレーニングを開催するための通いの場づくりの支援を行っている。

一定の条件を満たした認知症カフェを運営する団体に対して支援を行っている。また地域包括支援センターの協力を得て、市民が独自で運営している認知症カフェを調査し、実態を把握することで認知症予防の普及につなげていきたいと考えている。

(2) はままつ友愛の高齢者プランの令和3年度事業実績及び進捗状況について

(会長)

次に、「はままつ友愛の高齢者プランの令和3年度事業実績及び進捗状況について」事務局から説明願いたい。

<事務局から資料2について説明。>

(会長)

ただいま事務局から説明があったが、ご意見、ご質問等があれば発言を願いたい。

(E委員)

介護人材の確保の説明の中で、コロナの影響により研修の開催、参加者が減少しているとの話があったが、今後も同様に厳しいような状況になることが予想される中で、対策などあれば教えてほしい。

(事務局)

今年度から助成対象として増やした認知症の研修は、オンラインで開催しているため参加しやすいと考えている。その反面、どうしても対面での開催という研修もあるため、コロナの状況が解消されるか等の不透明な点も含めて次年度、次期プラ

ンにおいては、対策について考えていきたい。

(A 委員)

介護人材確保について、今後の訪問と施設のそれぞれで介護人材が何名くらい必要になるのか、可能であれば示してほしい。

介護は業界として離職率は高い分野である。介護職の離職防止に対しての支援も考えてほしい。

また事業所においては、職員の確保に人材紹介会社を使っている。介護報酬で得た収益の多くが人材紹介会社に流れてしまう状況は、介護保険制度の運営面からもよい状態とはいえないのではないかと感じる。行政として人材紹介会社を使わざるを得ない事業所がどれだけあるのか把握することも必要なのではないかと感じる。

介護施設の調理場の仕事に人が集まらないとの声を耳にした。行政からも調理場の仕事への支援をしていただけないだろうか。

行政が主体となって研修を開催することで、より参加者が増えるのではないかと感じる。

(事務局)

いただいた意見は次期プランの作成に活かしていきたい。

(D 委員)

EPA の支援事業に対する年ごとの定着率や高校へのパンフレットの配布による介護職員への就職率等をまとめていくことでより介護人材対策の効果を示していくことができるのではないかと感じた。

プランにおける 6 つの重点施策について、それぞれの進捗状況について報告いただくことでプランの全体的な進捗を確認できるのではないかと感じる。

(事務局)

令和 2 年度に補助を行った資格習得者（約 280 名）にアンケート調査を行い、約 212 の回答を得た。その内の 8 割近くが資格取得時と同一の事業所で働いており、その結果から補助事業については離職防止の面においても一定の効果があったと考えている。

御意見いただいた EPA の定着率や高校へのパンフレットの効果等、可能なものは示していけるようにしたい。またプランにおける 6 つの重点施策の進捗状況の報告についても高齢者福祉課と検討して調整していく。

(F 委員)

ICT やロボット等の導入について、市として何か支援策は考えているのか。

(事務局)

現状としては、県が大規模に ICT 等の導入支援事業を行っている。市としては今

後の必要状況に応じて対応を講じていきたい。

(G委員)

介護のイメージアップとして高校へパンフレットの配布等を行っているが、高校生などの若い人達は介護に対してどのようなイメージを持っていると考えているのか。

(事務局)

介護人材確保推進検討会の若手委員の3名は、皆自分の仕事に誇りを持っており、充実した趣味の時間等もあり意欲的に活動している。

介護の仕事のマイナスイメージは8時間働いている中の大変な作業である一コマが先行してしまっているという意見をいただいている。

(3) 令和4年度介護保険サービス事業所の募集状況について

(会長)

次に、「令和4年度介護保険サービス事業所の募集状況について」事務局から説明願いたい。

<事務局から資料3について説明。>

(会長)

ただいま事務局から説明があったが、ご意見、ご質問等があれば発言を願いたい。

(A委員)

今年度は、鴨江圏域でのグループホームの整備ということだが、資料では平成30年に佐久間地区の施設が廃止となっている。昨年度は、天竜区域での整備という認識でよかったか。

(事務局)

第8期の介護保険事業計画において定めた施設整備計画に基づき、天竜区域を対象として募集を行った結果、山東地区でのグループホームの整備の決定に至った。

(H委員)

このサービス事業所の募集の件については、この運営協議会の場で審議すべきことなのか、また報告事項という形で捉えてよいものなのか。

(事務局)

令和4年度介護保険サービス事業所の募集の内容については、市の審査会によって採択されたものであり、今回の運営協議会でその結果を報告させていただいてい

る。

8 その他

9 閉会